

平成22年3月25日
義務教育課

平成21年度 第3回山形県教育懇話会説明資料

教育山形「さんさん」プランについて

1. 山形県における「少人数学級編制」

- ◇「少人数学級編制」のよさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2
- ◇山形県における「少人数学級編制」の効果・・・・・・・・ p 3
- ◇「少人数学級編制」と授業改善・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4

2. 平成21年度 教育山形「さんさん」プランの成果と課題

- (1) 平成21年度教育山形「さんさん」プランの概要・・・・・・・・ p 5
- (2) 成果と課題
 - ①中学校第2学年「少人数学級編制」・・・・・・・・ p 6～7
 - ②小学校低学年副担任制・・・・・・・・ p 8
 - ③重点教科充実制・・・・・・・・ p 9
 - ④別室登校学習支援員の配置・・・・・・・・ p 10

3. 平成22年度 教育山形「さんさん」プラン

- (1) 平成22年度教育山形「さんさん」プランの概要・・・・・・・・ p 11
- (2) 平成22年度少人数学級編制等推進事業・・・・・・・・ p 12

4. 教育山形「さんさん」プランの効果検証について

- (1) 教育山形「さんさん」プランの効果検証システム・・・・・・・・ p 13
- (2) 学習に対する意識調査・・・・・・・・ p 14～16

「少人数学級編制」のよさ

1. 少人数学級編制の意味・意義

- 現在、人間関係の希薄さが一つの要因ともなっているいじめ・不登校等の多くの問題が表面化しており、「生活集団の機能」を重視した教育をより一層強化していく必要がある。
- 「生活集団の機能」を重視する教育とは、共に生活する仲間と「苦労しながら、みんなで知恵を出し合い、協力して、わかった！できた！」という充実感を味わうことのできる教育であり、生活と学習が一体となった教育である。
- 「少人数学級編制」は、生活と学習が一体となった教育をより強化するものであり、日本の伝統的な教育を守り、発展させていくものである。

2. 「少人数学級」であることのよさ

(1) 子どもとじっくり向き合うきめ細かな指導

○児童理解が充実し一人一人への指導と評価が充実できる。

(2) 機動性、掌握しやすさ、教室空間の活用による効果的な指導

○教室に「余裕」が生まれ、学習環境や学習形態の工夫ができる。

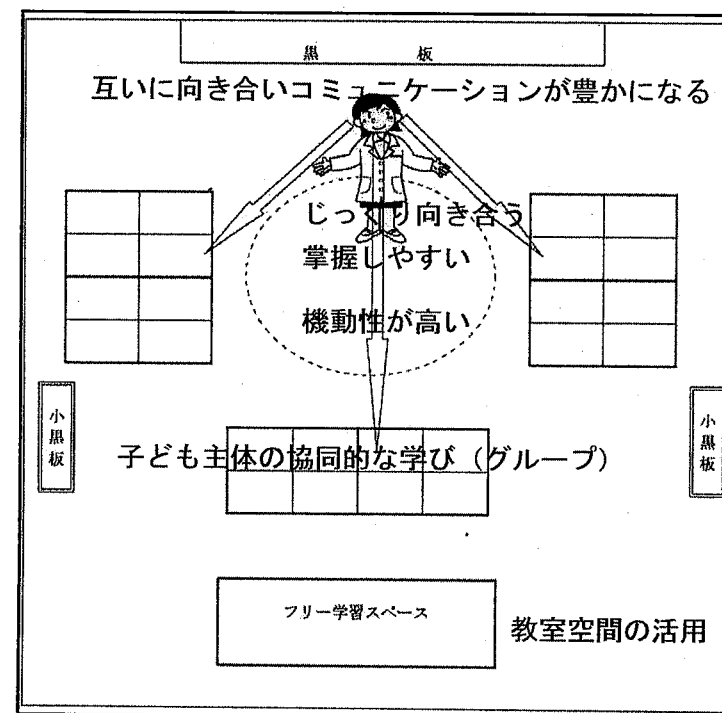
○子どもを掌握しやすく、グループ学習等子ども主体の学習ができる。

○機動性がよくなり、効果的な活動ができる。

(3) 所属感、子ども同士の関係性の深まり

○互いの関心・愛着・信頼関係が深まり学級のまとまりができる。

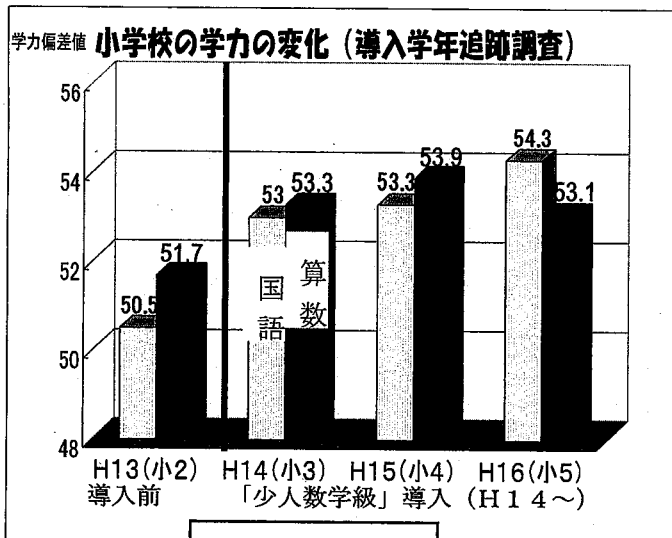
○学級における一人一人の役割が充実し、所属感が高まる。



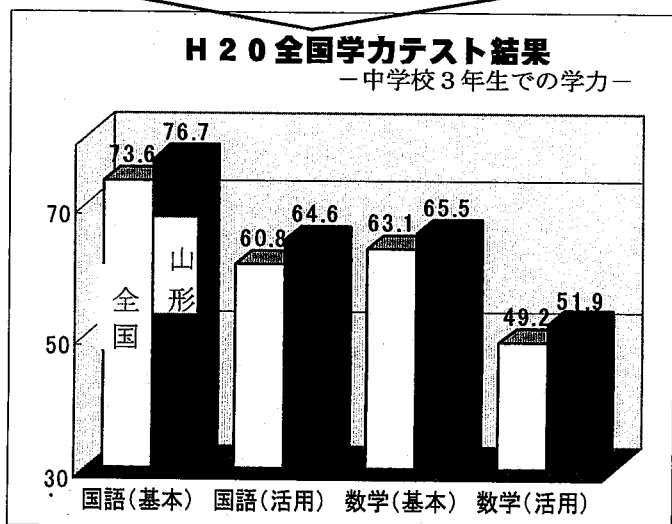
山形県における「少人数学級編制」の効果

山形県教育庁義務教育課

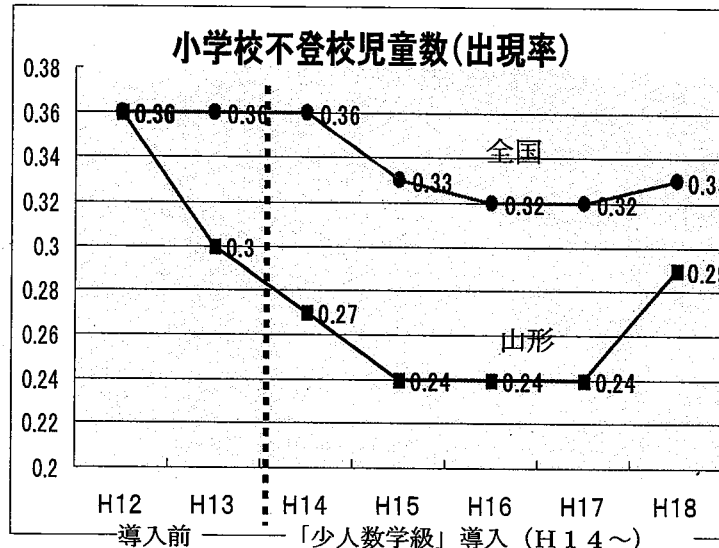
学力が向上した



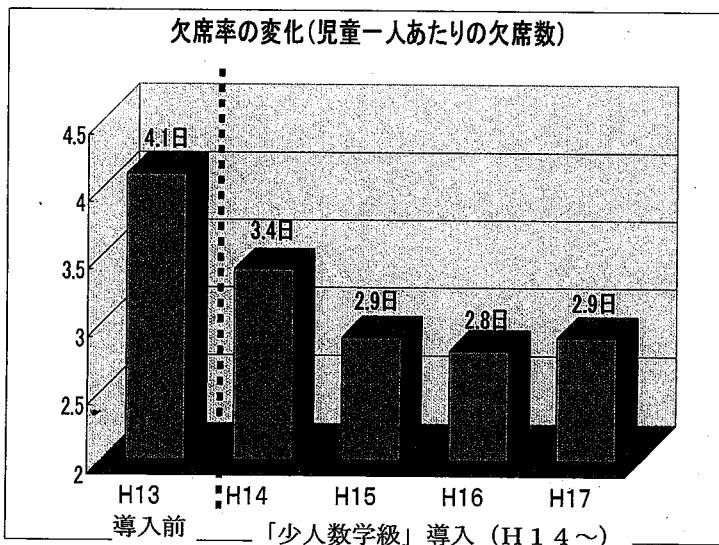
この子ども達の中学3年時の学力



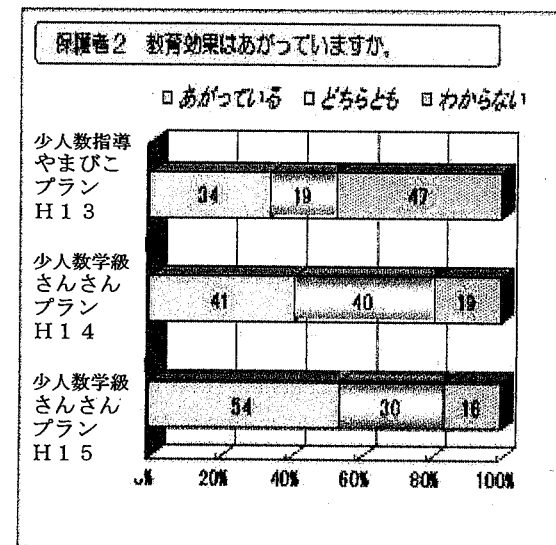
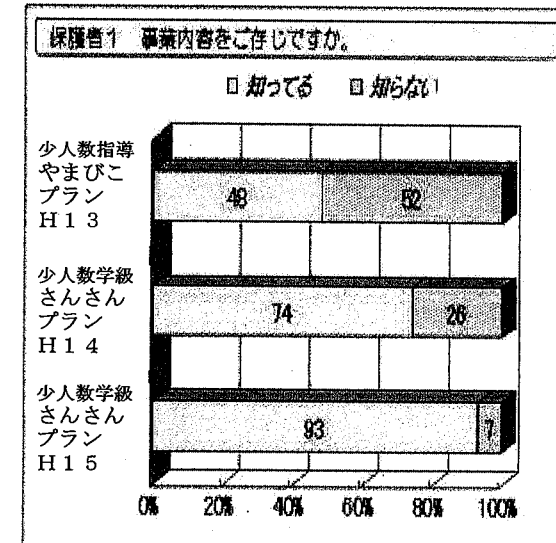
不登校児童数が減り、欠席率が低くなった



欠席率の変化(児童一人あたりの欠席数)



保護者から理解と高い評価を得た

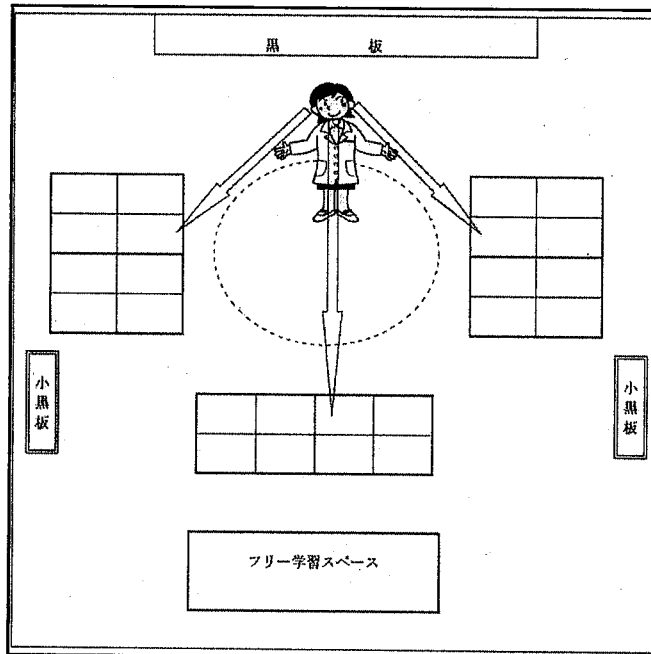


「少人数学級編制」と授業改善

【少人数学級により、よりよくなる授業】

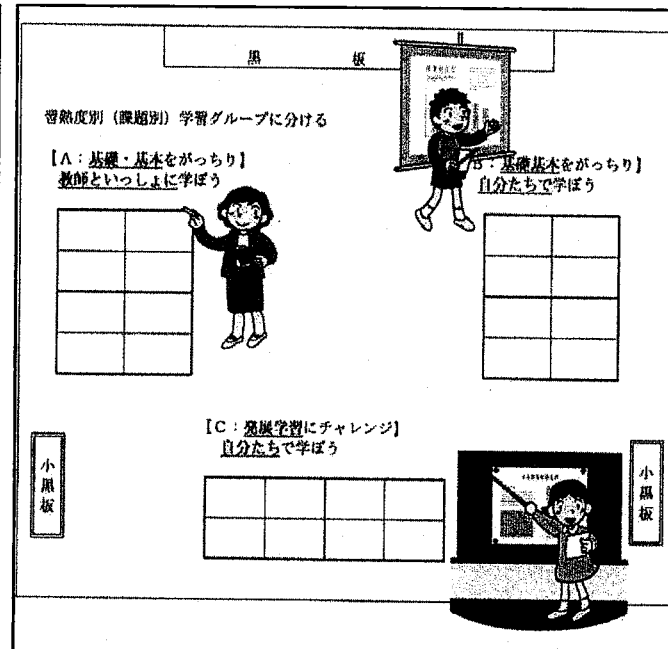
- 子どもが主体となり、個々の学びを尊重する授業
- 子どもをよく見取ることのできる授業
- 必要な子どもに必要な支援ができる授業

①子どもとじっくり向き合える学習形態の工夫



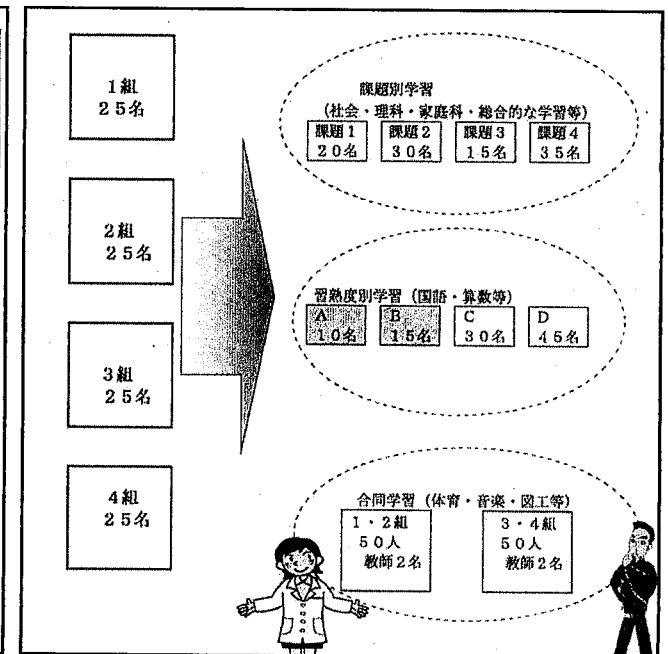
- 子どもをよく把握することができる。
- 子ども同士の「対話」が円滑に進められる。
- いくつかの「空間」が有効に活用できる。

②学級内「習熟の程度に応じた学習」の工夫



- 子ども同士が安心して学び合える。
- 子どもの主体的な学びが生まれる。
- 理解の十分でない子どもに適切な支援ができる。

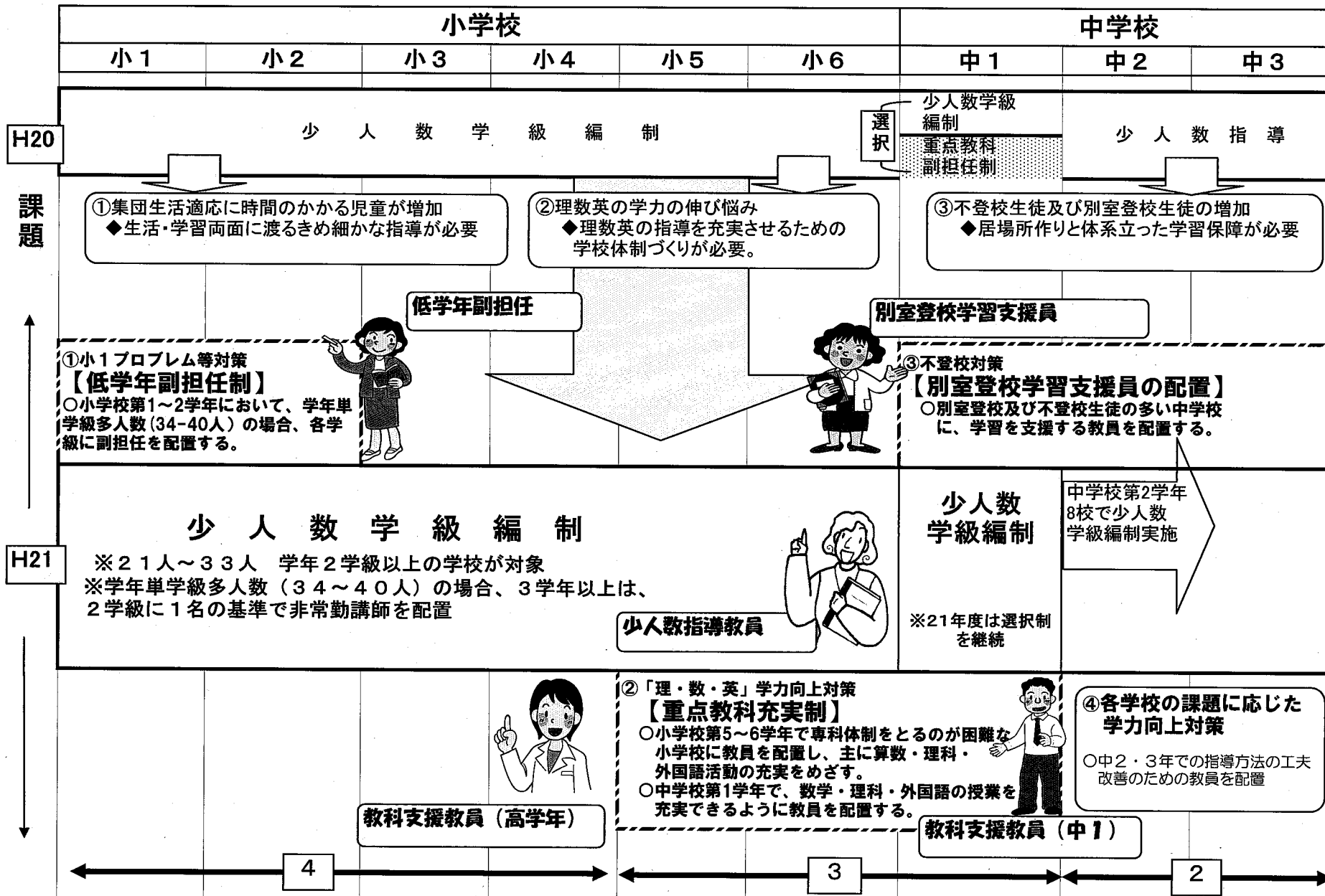
③学年をオープンにした指導方法の工夫



- 子どもの興味関心や課題別に応じた学習グループでの授業ができる。
- 2学級合同によるチームティーチングができる。

平成21年度 教育山形「さんさん」プランの概要

山形県教育委員会



1. 中学校第2学年少人数学級編制の成果と課題

◎目的：一人一人を大切にしたいきめ細かな指導で、学力の向上と良好な人間関係の構築をめざす。

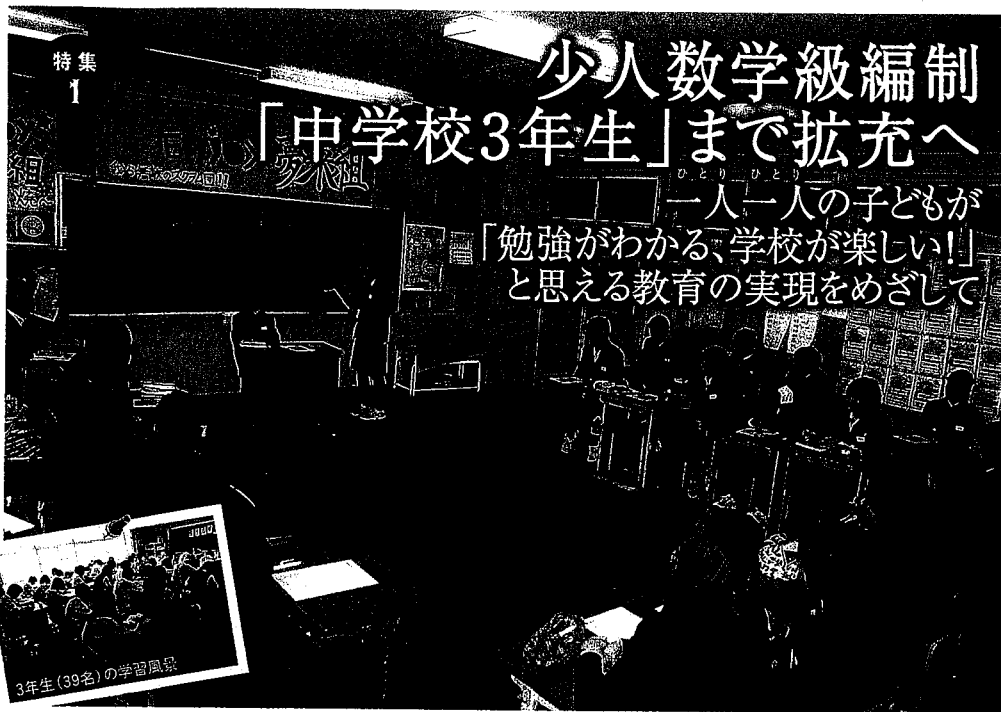
※先行実施校の訪問による授業参観と聞き取り調査より

成 果	課 題
<p>①学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な目標を掲げ、アンケート等の実践の評価も行いながら進めている。 ①不登校の減少 ②自学自習の習慣化 ③学力の向上 ○少人数になった利点を活かし、これまで以上に <ul style="list-style-type: none"> ①生徒に耳を傾ける ②声をかける ③手をかける を合い言葉に教育にあたっている。 <p>②学級経営・生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○係活動等での責任感や積極性が高まっている。 ○不安を抱える生徒を 早く見つけ出すようにしている。 ○一人一人の活躍の場を確保できるように努めている。 <p>③学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識、技能の確実な習得をめざし、個々の学習状況を的確に把握している。 ○個に応じたノート指導を行っている。 ○子どもの表情を見て授業を行い、「待つ」ことも大事にしている。 ○体育や技術、美術の技能等の指導において、1時間ごとの個々の取組状況を見取りながら支援している。 <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者に対して、生徒のことをより多く語るように努めている。 ○水曜は、全く残業無しが実施できている。教師の精神的なゆとりが子どもにもいい影響を与えている。 	<p>▲学級経営が充実するなどの成果、個々の学習状況を把握しきめ細かな指導をしていくという成果は見られたが、少人数学級になったことによる授業改善は十分でない。</p> <p>〈例えば〉 少人数学級編制になり、担任はよく机間巡視をし個別支援を行っているが、一方、学習課題への取組が終わり退屈そうな子どもも多く見られた。</p> <p>〈今後は〉 子ども同士が考え合い、表現し合う授業を創り、そのような姿を見取りながら、必要な子どもやグループに必要な支援をする授業改善が望まれる。</p> <p>【中学校でも進めてほしい学習形態】</p> <p>◇「対話」を重視した学習 ◇協同的な学習（グループ別）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1187 1029 1601 1372"> <p>対話重視型学習</p> <p>フリー学習スペース</p> </div> <div data-bbox="1624 1029 2038 1372"> <p>協同的な学習（グループ別）</p> <p>【A・基礎・応用をがっちり】 徹底しよう！と学ぶ</p> <p>【B・基礎をがっちり】 自分たちで学ぶ</p> <p>【C・発展学習にチャレンジ】 自分たちで学ぶ</p> </div> </div>

少人数学級編制

「中学校3年生」まで拡充へ

一人一人の子どもが
「勉強がわかる、学校が楽しい！」
と思える教育の実現をめざして



3年生(39名)の学習風景

学校が楽しいということ
それは、毎日の勉強がよくわかること
いじめや不登校などがなく
みんなが仲良く学校生活を送れること
先生が、一人一人の子どもに
きめ細かな指導をすることは
教育の原点であり
楽しい学校を約束するものです。

山形県ではこのような信念を持って
全国にさがしつけ
小学校から中学校一年生まで
少人数学級編制を実施してきました。
そして、今年度より
中学校二年生に二部導入し、
平成二十三年度までには、
「中学校三年生」まで
拡充することとしています。

ここでは、今年度
中学校二年生までの
少人数学級編制の先行実施をした
酒田市立第四中学校の
取組みを通して、
一人一人を大切に
山形の教育を紹介します。

酒田四中の取組み実践例

酒田市立第四中学校では、二年
生まで少人数学級編制が実施され
これまで以上に教師が
①耳を傾けよう
②声をかけよう
③手をかけよう
を合言葉に生徒に接しています。

一人一人の子どもに ①耳を傾ける

不登校の未然防止をめざす
教師は、授業や日々の生活にお
ける対話、生徒の日記やノートな
どを通して生徒をよく知る努力を
しています。
生徒は大切にされているという
安心感を持ち、特に、少人数学級
編制の学年では欠席率が低くなっ
ています。

【今年度の欠席率(%)】

酒田市立第四中学校
※()内は1学級平均人数

月	1年 (33名)	2年 (29名)	3年 (38名)
4月	0.5	0.6	1.3
5月	0.6	1.3	1.7
6月	1.3	1.5	2.3
7月	0.7	1.1	2.7
8月	1.5	1.8	2.2
9月	0.7	1.4	2.8

一人一人の子どもに ②声をかける

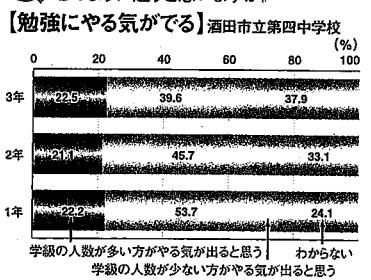
自学自習の習慣化をめざす
自学自習の習慣化をめざすため、
親は子どもに声をかける、教師は
生徒の学習ノートにメッセージを書
くことにより、子どもががんばりを
支援しています。大切にしているこ
とは、一人一人の生徒に応じた声か
け、メッセージをおくることです。
四十人の学級から二十八人の少
人数学級を担任した教師が次のよ
うに述べています。

生徒と向き合う時間が増え、学習ノ
ートのメッセージも丁寧に書いています。
また一人一人のことをよく考えて言葉
をかけるようになりました。

一人一人の子どもに ③手をかける

学力の向上をめざす
少人数学級だと勉強にやる気が
出ると答えている生徒が多くなります。
これは、一人一人の生徒に教師が
適切な指導をしている成果ととら
えることができます。
特に大切にしていることは、す
べての生徒に対し一律に手をかけ
るのではなく、必要な生徒に必要
な支援をしているということです。
このような支援は、生徒の声をよ
く聞き、生徒の様子をよく見てい
る教師だからできることです。

Q 人数が多いクラスと少ないクラスでは どのように違うと思いますか。



酒田四中では今年度から中学校二年生
まで少人数学級編制を実施しました。
本来なら学級が39、40名のところ、28
、29名での学級編制ができ、一人一人を
大切にしたい教育が実現できました。生
徒、保護者、教職員共に喜んでおります。
(酒田市立第四中学校長)

少人数学級編制と 山形県の教育展望



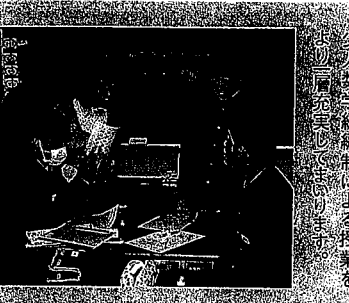
山形県教育委員会委員長
長南 博昭

少人数学級編制は、県民のご支援を受
けて実現したものです。現在、期待どおり
子どもの生活にも良い影響を与えており、学
力の向上や不登校の減少、欠席率の低下
など、着実に子どもの変容につながっています。

私は、これまでも、そしてこれからも、少
人数学級編制による教育には、生活集団の
機能を重視した指導を期待しています。子
どもにとっては、学習と生活は一体的なも
のであり、共に生活する仲間と、苦勞しな
がら、みんなで知恵を出し合い、協力して「わ
かった!できた!」という充実感を味わわせる
ことが、その後の人生にプラスになると信
じています。

「教育山形「さんさん」プラン」は、学
習と生活が一体となった教育をより強化
する仕組みであり、子どもの「学ぶ力」を真
に育てることができる日本の伝統的な指
導形態です。

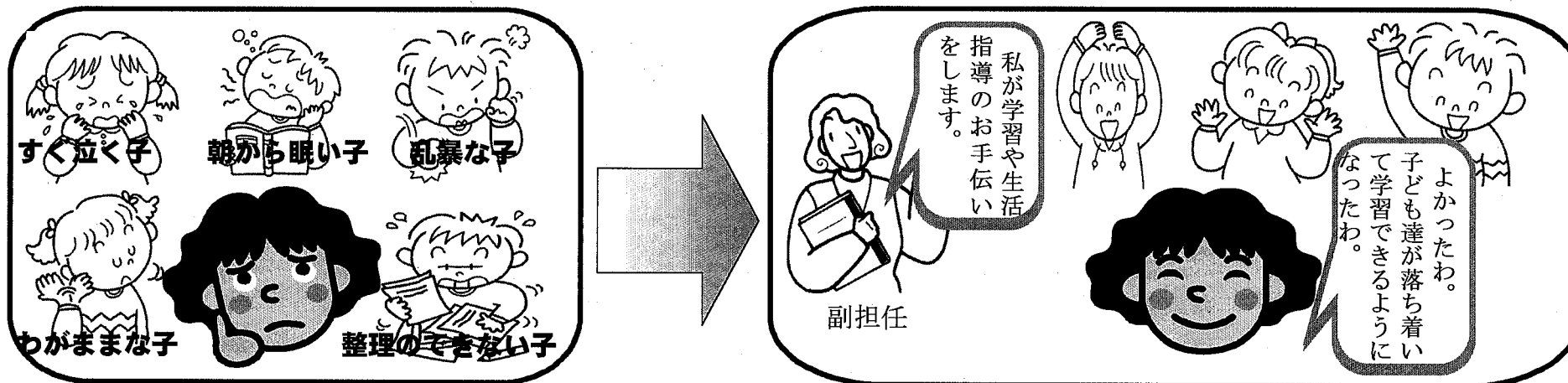
今、中学校3年生まで、段階的に拡充・実
施できる見通しとなったことに、保護者をは
じめ、皆様と共に大きな期待を抱いています。
義務教育9年間を通した「少人数学級編制」
の実現は、一人一人を大切にしたい山形の
教育をより一層強化していくことになりま
す。さらに、一人一人の子どもを最大限
に伸ばしていくためには、学校、家庭、地域
が三位一体となって取り組むことが大切
で、そのための「教育の仕組み」も確立
すべきであると考えております。



少人数学級編制による授業への期待
「三年間の全国学力学習
状況調査の結果をみると、山形の
子どもは「学ぶ力」を実現する
力をもつことが必要かあります。
それは、子ども同士が精一杯
考え、合同表現し、授業をつ
つと進める授業から、子ども
自身が学び、知識・技能を習
得していく授業です。
これまでに子どもへの理
解が必要になります。子どもが
学ぶ姿をよく見守り、子ども
の声をよく聞いて必要に応じて必要
な支援をしていかなければなり
ません。
このような観点から本県では、
少人数学級編制による授業を
より充実させていきます。

2. 低学年副担任制の成果と課題

◎目的 協力体制による個に応じたきめ細かな指導で、集団生活や学習に適応できない子ども等の自立をめざす。



※低学年副担任配置校の訪問による授業参観と聞き取り調査より

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急場面・パニックなどに担任が関わっていると学級の学習全てが止まってしまうが、副担がいることで、手分けして対応することができ、担任は学習指導に専念できる。 ○ 個別指導を充実させることができるため、より着実に基礎的・基本的な学力を定着させることができる。その成果を受けて、保護者の信頼も高まっている。 ○ 学年付きの副担任が配置されたことで、複数の目で子どもを見たり、学級経営をしたりすることができるようになり、担任の不安が解消されるとともに教育活動全体の質が高まっている。 ○ 学級活動に集中できない子に寄り添うことができ、その子が安定したことで、学級全体の雰囲気も落ち着いてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲常に1学級の中でのチームティーチングは、打ち合わせが必要になる。一日6時間勤務のためその時間が十分にとれない。 ▲副担任が常に指示を受ける形になり、意欲や能力が十分発揮されない。教師が2名いることのよさを活かした指導方法の工夫改善が必要である。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>国語や算数は学級を2つに分けることで、より少人数による授業ができ、且つ、副担任の意欲と能力が最大限に発揮される</p> <p>The diagram shows a large box labeled '1年1組' with '36人' inside. An arrow points to two smaller boxes labeled 'Aグループ' and 'Bグループ', each containing '18人'. Small figures of children are shown next to each group box.</p>

3. 重点教科充実制の状況と成果（小5，6年）

目的：高学年における一部専科体制を実施し、本県の重点教科である「算数・理科・外国語活動」の学力を高める。

A校で見られた重点教科充実制

◎非常勤講師が理科・算数の専科で指導

※重点教科の理科と算数を、教務と教科支援教員が可能な限り担当している。

6年1組 算数(5)講師	6年2組 算数(5)講師	6年3組 算数(5)教務
5年1組 理科(3)講師 図工(2)教務	5年2組 理科(3)教務 図工(2)教務	教 務 算数5時間 理科3時間 図工4時間

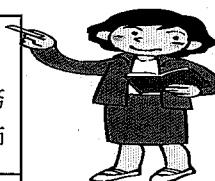


B校で見られた重点教科充実制

◎非常勤講師が音楽の専科で指導

※重点教科は理科を教務が、算数と外国語活動は担任が持ち、空き時間で教材研究しながら充実した指導をしている。

6年1組 理科(3)教務 音楽(2)講師	6年2組 理科(3)教務 音楽(2)講師
5年1組 理科(3)教務 音楽(2)講師 算数(3)講師	5年2組 理科(3)教務 音楽(2)講師 算数(3)講師



※重点教科充実制該当校の訪問による授業参観と聞き取り調査より

成 果	課 題
<p>1. 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校高学年の教師が、5時間程度の一定の空き時間を確保することができ、算数や理科、外国語活動の等の教材研究を深めることができ、授業の質が高まっている。 <p>2. 学級経営や生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの教師が一つの学級に関わることにより、教師の協働性が高まり生徒指導上の問題に早期に対応することができる。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が増え、職員室を空にしない状況を維持することができる。 	<p>▲ 非常勤講師により、ほとんど一人で授業を担当している場合と、チームティーチング等でサポート的な指導をしている場合がある。算数や理科等の重点教科は充実しているが、十分な専科体制がとれず、高学年教師にゆとりがなくなる状況が出ている。</p> <p>〈対策〉 非常勤講師をチームティーチング等で活用する場合は、教頭・教務による高学年の専科体制を組むようにする。</p>

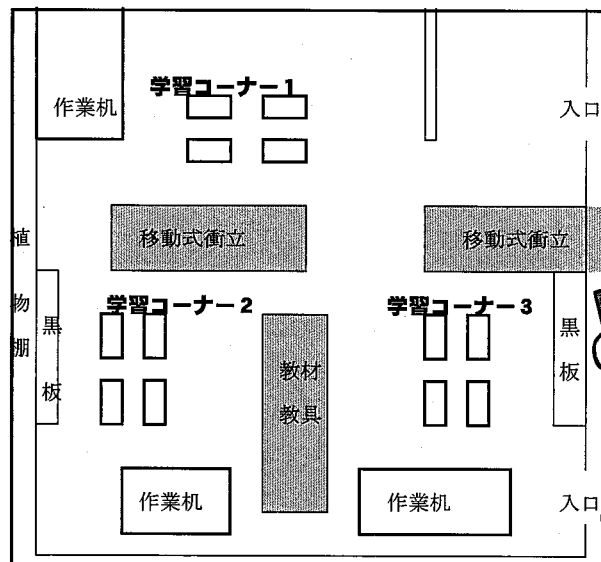
4. 別室登校学習支援員の配置の成果と課題

目的：別室登校生徒に学習機会の保障と学習支援を行い、安定した登校と教室への復帰をめざす。

(1) 学習支援室の工夫

(2) 別室登校学習支援員の配置

(3) 時間割に基づく協力体制による指導



私はこんな仕事をしています。
 ①時間割を作って学習します。
 ②個に応じた学習をしています。
 ③話相手や悩みを聞いたりします。
 ④家庭訪問や、親とも面談します。
 ⑤生徒同士でコミュニケーションができるようにしています。

連携
 ①保健室（養護教諭）
 ②教育相談室（SC 相談員等）

	月	火	水	木	金
1	自学 ■	自学 ■	自学 ■	自学 ■	自学 ■
2	数学 ○☆	理社 ○☆	数学 ○☆	英語 ○☆	国語 ○☆
3	英語 ○☆	数学 ○☆	英語 ○☆	理社 ○☆	数学 ○☆
4	国語 ○☆	英語 ○☆	国語 ○☆	国語 ○☆	英語 ○☆
給食	○	○	○	○	○
5	理社 ○☆	国語 ○☆	理社 ○☆	数学 ○☆	理社 ○☆
6	振り返りの時間 ○ ○ ○ ○ ○				

【改善状況】（別室登校生徒数422人）	成 果	課 題
①不登校の生徒が別室登校へ（72人） ②地域の適応教室から別室登校へ（17人） ③別室登校から教室へ復帰（78人） ④休まず別室での学習が安定（139人） ⑤好ましい変化が見られない（116人）	○別室の学習支援室を核にして、不登校・その傾向のある生徒への対応がより具体化してきた。 ・担任と学習支援員の連携 ・養護教諭や相談員も加えたチーム体制の確立 ○子どもの様子を継続的に捉えることができ、教室復帰へのタイミングをつかむことができた。 ○時間割による学習が子どもの生活リズムを整え、活力を引き出している。 ○保護者の信頼が増し、協力を得られるようになった。	▲事情の違う複数の生徒への対応になると支援は難しい。 ▲学習支援員に任せっきりでなく、教科指導については学校体制で臨むことが必要である。また、スクールカウンセラーや相談員との協力も必要であり、教室運営全体を受け持つ教員がいると良い。

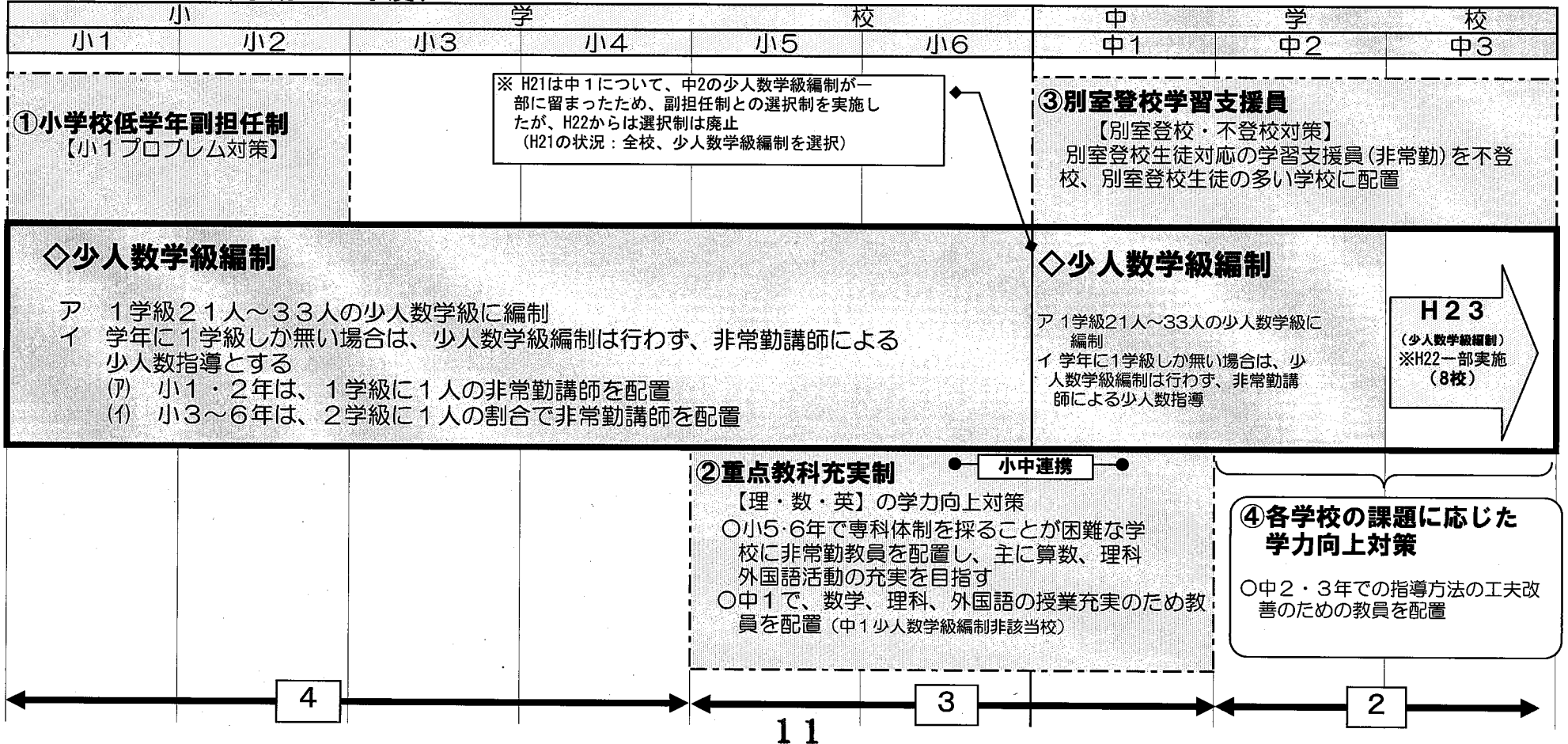
平成22年度 教育山形『さんさん』プラン

1. 基本方針

- (1) 平成23年度までに、中学校で少人数学級編制を完全実施し、本県義務教育における教育環境の一層の充実と向上を図る
(平成22年度は中学校第2学年の全部及び第3学年の一部実施)
- (2) 喫緊の課題対応施策(「小学校低学年副担任制」、「重点教科充実制」、「別室登校学習支援員」)は、継続して実施する
- (3) 中学校第2,3学年に指導方法の工夫改善の推進については、各学校の教育水準の維持に配慮し、新たな基準により加配教員を配置する

【新基準】 中学校第2・3学年の学級数(標準法に基づく学級数)
 3学級以下(非常勤講師1名) 4~5学級(常勤教員1名) 6~10学級(常勤教員2名) 11~15学級(常勤教員3名)
 ※少人数学級編制が実施された場合は、その増教員に充てる。

◇全体イメージ(平成22年度)



少人数学級編制等推進事業の全体構想図

教育山形「さんさん」プラン

～ 学力向上、良好な人間関係、いじめ・不登校等の未然防止をめざす人的環境の整備 ～

県内の各学校

少人数の良さを十分にいかした、児童生徒一人一人へのきめ細かな指導のための研究と実践



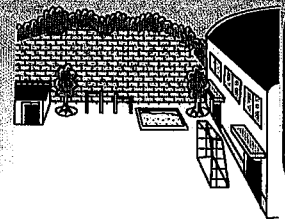
授業改善・指導力向上

評価・提言

情報の発信と交流

～コミュニケーションを軸とした～
授業改善プロジェクト

課題解決のための実践研修



- ◇ 課題の洗い出し
- ◇ 実践計画策定
- ◇ 事前研修
- ◇ 実践研修
- ◇ 成果のまとめ

直接的・継続的な指導や助言



教育
事務所
指導
主事

実践報告会

(学校を会場にした事務所研修会)

授業改善プロジェクト対象校の実践をもとに、参加校の課題や成果等についての情報を交換する。

成果・課題・取組等

事業成果の検証

- ① 学力向上担当者会議
 - ・ 取組状況、成果と課題等総括
- ② 教育事務所少人数学級編制等推進WG
 - ・ 課題や要望の把握、改善策の思案
 - ・ 学校への指導方法の共有
- ③ 学力調査、学習意欲調査
 - ◇ 全国学力・学習状況調査 国・算・数
 - ◇ 学習に関する意識調査 (抽出)
 - ◇ 不登校関係調査
 - ◇ 県学力調査 (抽出) 英語
 - ◇ 学習に関する意識調査

行政の推進への取組

検証結果・成果

山形県教育懇話会

- 外部評価
- 専門的な立場からの効果検証と改善の提言
- その他、課題に対する検討など

外部からの客観的な提言と評価

さんさんガイド
各学校に、実践の成果や情報を提供する。

山形の子どもの「まなび」を考えるフォーラム
情報交流と先進的な取組についての情報提供の場として
全県の学校を対象に開催。

教育山形「さんさん」プランの効果検証システム

1. 各学校、全教職員への取組の周知
 ○各学校に「さんさん」ガイドを第6集を、全教職員にそのリーフレットを配布

2. 各学校の取組状況の把握と指導（経過評価と指導・支援）

- ・授業改善プロジェクト実施校の取組状況の把握
- ・各教育事務所における学校訪問
- ・義務教育課による学校訪問（H22 16校）

3. 各教育事務所少人数教育ワーキング会議での事例検証（自己評価） （県と市町村の指導主事）

4. 平成22年度 学習に対する意識等調査（関係者評価）

趣 旨

児童生徒の学校及び家庭における学習の状況や意欲、コミュニケーションの現状等について調査を行い、その課題点を明らかにするとともに今後の改善の推進に役立てることを目的として実施する。

調査対象（プラン対象校の児童・生徒、保護者、教員）

- (1) 少人数学級編制該当校
 - ①中学校1, 2年生対象
 - ② 小学校5年生対象（抽出10%）
- (2) 重点教科充実制（抽出10%）
- (3) 低学年副担任制（全数……34学級）
- (4) 別室登校学習支援員（全数……20校）

調査時期

- (1) 平成22年度：平成23年2月～3月

調査内容・調査方法

- (1) 調査内容
 - ①児童生徒の学習に対する関心・意欲・理解度について
 - ②児童生徒の家庭における学習等の状況について
 - ③学級の人数についての考えやティーム・ティーチング等の指導方法について
 - ④学校生活におけるコミュニケーションの現状について
 - ⑤別室登校生徒への支援状況について

5. いじめ・不登校児童生徒数、学力・学習状況調査結果の考察と分析（達成度評価）

6. 山形教育懇話会による評価（外部評価）

7. 評価をもとに改善策を各学校、全教職員へ周知（H23 8月）
 ○「さんさん」ガイド第7集、リーフレット等
 ○研修会等

区分：33

《教員用少人数学級編制アンケート》— 中学校用 —

1 あなたの担当教科を○で囲んでください。

国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語 1-1

2 (1)から(3)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 自分は、授業改善に積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4	5
(2) 学校全体としても、授業改善に積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4	5
(3) 生徒のことや教育全般について、先生方同士で語り合う場や時間が十分ある。	1	2	3	4	5

※少人数学級編制が実施されている学年(1年生及び一部2年生)と実施されていない学年(2,3年生)の授業の両方を担当している先生は、3と4の両方に回答してください。

3 【少人数学級編制が実施されている学年(1年生及び一部2年生)の授業を担当している先生が回答してください】(1)から(7)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 総じて生徒の学力が向上した。または、高い学力水準を維持している。	1	2	3	4	5
(2) 総じて生徒の学習意欲が高まった。または、高い学習意欲を維持している。	1	2	3	4	5
(3) 学習につまずく生徒が減った。または、少ない状況を維持している。	1	2	3	4	5
(4) 生徒が発言する機会が増えた。または、発言の多い状況を維持している。	1	2	3	4	5
(5) 生徒の友人関係が広がった。	1	2	3	4	5
(6) 自学自習の習慣化が図られている。	1	2	3	4	5
(7) 授業中、一人一人の生徒の学習に取り組む様子がよく見える。	1	2	3	4	5

区分：13

《教員用低学年副担任制アンケート》

— 小学校用 —

※小学校1～2年生を担当している先生(学級担任の先生及び副担任の先生)

1 (1) あなたの担当学年を○で囲んでください。

1年 2年 1-3

2 担任、副担任2名の先生で下記のような取組はどの程度実施していますか。あてはまる項目に○を付けてください。

	よくしている	時々している	していない
(1) 集団生活や学習への適応二時間のかかる児童への個別支援			
(2) 国語や算数等、学級を二つの学習グループに分けて、それぞれの先生が教える少人数指導			
(3) 教科学習等で協力して指導するチームティーチング			
(4) 児童の評価、学級経営事務等の協力			

3 (1)から(7)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 総じて児童の学力が向上した。または、高い学力水準を維持している。	1	2	3	4	5
(2) 総じて児童の学習意欲が高まった。または、高い学習意欲を維持している。	1	2	3	4	5
(3) 学習につまずく児童が減った。または、少ない状況を維持している。	1	2	3	4	5
(4) 児童の実態把握がより適切に行われ、個別の支援が充実している。	1	2	3	4	5

アンケートの質問は以上です。ありがとうございました。

区分：23

《教員用アンケート重点教科充実制》

— 中学校用 —

1 あなたの担当教科を○で囲んで下さい。

1. 数学	2. 理科	3. 外国語
-------	-------	--------

I-1

2 (1)(2)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 少人数指導を効果的に取り入れ、授業改善に積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4	5
(2) 生徒のことや教育全般について、先生方同士で語り合う場や時間が増えている。	1	2	3	4	5

3 取り組んでいる重点教科の学習について、(1)から(7)までのそれぞれについて、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

1年生の状況	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 総じて生徒の学力が向上した。	1	2	3	4	5
(2) 生徒の学習意欲が高まった。	1	2	3	4	5
(3) 学習につまずく生徒が減った。	1	2	3	4	5
(4) 生徒が発言する機会が増えた。	1	2	3	4	5
(5) 生徒の実態把握がより適切に行われている。	1	2	3	4	5
(6) 生徒一人ひとりが自信を持って学習に取り組んでいる	1	2	3	4	5
(7) 授業中、一人一人の生徒の学習に取り組む様子がよく見える。	1	2	3	4	5

アンケートの質問は以上です。ありがとうございました。

区分：43

《教員用別室登校支援員アンケート》

— 中学校用 —

不登校・別室当校生徒等担当教員（教務主任・生徒指導主事、教育相談担当等）がお答え願います。

1 (1) 今年度、別室登校した人数は何名ですか。（実数で回答願います）

	人
--	---

I-1

2 下記のような変化が見られた生徒数を記入願います。

- (1) これまで登校できなかったが、別室登校できるようになった生徒 () 人
- (2) これまで適応指導教室等外部機関で指導・相談を受けていたが、別室登校できるようになった生徒 () 人
- (3) 別室で生活・学習していた生徒が、完全に学級に入れるようになった生徒 () 人
- (4) 学級には入れないが、好ましい変化が見られるようになった生徒 () 人
- (5) 特に好ましい変化は見られない生徒 () 人

3 別室当校生徒等に対応する「学習室」の運営についてあてはまるものに○を付けてください。

- (1) 時間割をつくって計画的な学習をしている
- (2) 別室登校生徒への授業については、別室登校生徒学習支援員だけでなく、学校全体で取り組んでいる。
- (3) 個別の支援計画を作成して対応している。
- (4) スクールカウンセラー（または相談員）などの協力も得ながら、教室復帰への取り組みをしている。
- (5) 欠席の多い生徒に対して、別室への登校を働きかけている。

4 別室登校支援教員がお答え願います。

別室に登校する生徒の様子について、あなたの考えに一番近いもの一つずつ選んでその番号に○を付けて下さい。

- (1) 別室での学習や生活を楽しんでいる。
- (2) 意欲的に学習に取り組んでいる。
- (3) 自分のことをよく話す。
- (4) 別室で、他の生徒ともコミュニケーションをとっている。
- (5) 学級と一緒に学習することなど、自分で考えて行動している。

アンケートの質問は以上です。ありがとうございました。

区分：32

《保護者の皆様へ》

—中学校・第2学年用—

このアンケートは、少人数学級編制に関して、お子さんの様子や望ましい指導方法等について聞くものです。

- 1 (1)から(6)までのそれぞれについて、お子さんの様子や話から、一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 学校が好きだ。	1	2	3	4	5
(2) 勉強が好きだ。	1	2	3	4	5
(3) 自分から進んで家庭学習に取り組んでいる。	1	2	3	4	5
(4) どんなことでも、できるようになるまで努力している。	1	2	3	4	5
(5) 充実して楽しい生活を送っている。	1	2	3	4	5
(6) 先生方は、授業中に子どもをよく見て指導してくれていると感じる。	1	2	3	4	5

- 2 次の質問について、あてはまるものを選んで、その番号を右の□に記入してください。

- (1) 少人数学級編制についてどう思いますか。(一つ選んでください。)

- 今後も少人数学級編制(33人以下)を継続して欲しい。
- さらに少ない人数(32人以下)で学級編制をして欲しい。
- 全学年で実施する必要はない。
- 少人数学級編制の必要はない。
- よく分からない。
- その他(下の□に書いてください。)

2-1①

2-1②

アンケートの質問は以上です。ありがとうございました。

区分：31

《中学生用少人数学級編制アンケート》

—第2学年—

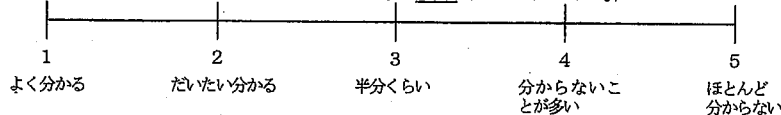
このアンケートは、「毎日の生活や学習」について聞くものです。
次の質問に答えてください。(記名の必要はありません)

- 1 (1)から(7)までのそれぞれについて、あなたの考えや行動に一番近いもの一つずつ選んで、その番号に○を付けてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
(1) 学校が好きだ。	1	2	3	4	5
(2) 勉強が好きだ。	1	2	3	4	5
(3) 先生は自分をよく見てくれる。	1	2	3	4	5
(4) どんなことでも、できるようになるまで努力している。	1	2	3	4	5
(5) 自分と違う意見も尊重している。	1	2	3	4	5
(6) 学級の問題について、みんなで話し合っ解決している	1	2	3	4	5

- 2 (1)から(3)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んで、その番号を右の□に記入してください。

- (1) 学校の授業がどの程度わかりますか。(一つ選んでください。)



2-1

- (2) 学級の人数はどれくらいがいいと思いますか。(一つ選んでください。)

- 40人
- 35人から39人
- 30人から34人
- 25人から29人
- 24人以下
- わからない

2-2

- (3) (2)でそう答えた理由としてあてはまるものをすべて選んでください。

※(2)で「6 わからない」と書いた人は記入する必要はありません。

- 友達がたくさんできるから
- 授業でいろいろな意見を聞くことができるから
- 行事などが充実するから
- わからないところを先生に質問しやすいから
- 自分の意見を発表する回数が増えるから
- チーム・ティーチングで授業が行われているから
- 授業では、少人数に分かれて学習しているから
- その他(下の□に書いてください。)

2-3①

2-3②

アンケートの質問は以上です。ありがとうございました。